

35 救急クイズ こんなときどうする？

ケガや病気の人を発見したときに実施する応急手当として正しい方法、間違った方法をクイズ形式で楽しく学びます。



応急手当についての正しい方法をクイズ形式で楽しく学びます。

時間軸

実施内容

対象人数★5～40人（1グループ5～6人）

1 導入（5分）

⇒資料35-1

- ケガや病気の人を発見したときに、近くにいる人が正しい応急手当を行うことの重要性を話します。具体的には、以下のとおりです。
「ケガや病気になった時、すぐに家族や大人に知らせますが、もし外でケガなどをした時、自分で間違った手当をすると、よけいに具合（症状）がひどくなる場合があります。今から救急のクイズをしながら、こんな時どうしたらいいのか考えてみましょう。」
- 資料35-1を配付します。指導者が問題を読みながら該当する箇所に○を付けて回答していくことを説明します。
- グループ分けして、みんなで話し合いながら回答を考えるなどの工夫をしてもよいでしょう。



正しい応急手当が命を救うこともあります

2 クイズ実施（10分）

⇒資料35-1-35-2

- 各問題について指導者が読み上げながら、資料35-1の該当箇所に○を付けてもらいます。
- 記憶が新しいうちに正解が聞けるように、1問ずつ答えあわせを行います。問題の解説は資料35-2（指導者用）を読み上げます。



皆で意見を出し合って、楽しく実施しましょう

3 まとめ（5分）

⇒資料35-2

- 資料35-2（指導者用）の一番下にある「総括」を読み上げます。
- 再度、応急手当の重要性について説明し、実際にケガや病気の人を発見した場合には、近くの大人に知らせることを説明します。
- 帰ったら家の人にも教えてあげるよう指導しましょう。
(資料35-2（指導者用）を配付して持ち帰ってもらってもよいでしょう。)

指導ポイント

問題数を多くこなすよりも、しっかりと考える時間を作り、少ないケースをしっかり記憶させるほうがいざというときに役立ちます。

自主防災組織の関わり方

実際の事例（経験がある方がいる場合）の紹介をお願いします。

準備するもの（目安）

準備品	数	備考
<input type="checkbox"/> 資料「救急クイズ！こんな時どうする？」	人数分	資料35-1（配付用）
<input type="checkbox"/> 資料「救急クイズ！こんな時どうする？」（解説）	1	資料35-2（指導者用）

家庭への持ち帰り

救急クイズ資料を持ち帰り家庭内で話してもらうように指導してください。

このメニューに関する+αの知識

- 救急といえば、「命にかかわる応急手当」のイメージが強いですが、すぐには命に関わらないケガや病気でも最初の対応次第で後で大きく影響し、時には命の危険を伴う状況になることがあります。正しい応急手当とともに「してはいけないこと」を覚えておくことが必要です。
- 大災害の状況下で応急手当を実施することは、平常時の手当以上に重要です。平常時には病院に着くまでの間や救急車が到着するまでの間、ケガや病気をした人を保護するために応急手当を実施しますが、大災害時には長時間治療を受けられない場合があります。学習した応急手当の知識が大災害でも活用できるように必要な資機材などを備えておきましょう。

ひと工夫

- 班分けして、回答を班ごとに決めさせると皆で考えることができ、競争形式になるため集中力が高まります。
- 実際に包帯やタオル、ラップ等を準備して、実演（または体験）をすると効果が高まります。